令和四年度「水の週間」
第四十四回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」入賞作品集

水について考える

福島県復興・総合計画課

あいさつ

水は、あらゆる生命を育み、多様な生態系を維持するとともに、大地に豊かな実りを与え、多彩で美しい自然環境をつくりあげるなど、私たちの生活には欠かすことのできないものです。

また、水は限りある資源であり、水環境を守ることは、私たちの豊かな生活を維持していくうえで不可欠です。

本県には猪苗代湖や裏磐梯湖沼群をはじめとして、豊かで美しい水環境が各地にあります。代々受け継がれてきた地域の宝を守り、後世に伝えていくことが重要です。

県では水に対する関心を高め、一層の理解を深めていただくことを目的に、八月一日の「水の日」及び、八月一日から八月七日までの「水の週間」の行事の一環として、「全日本中学生水の作文福島県コンクール」を昭和五十四年より毎年実施しています。

四十四回目を迎えた今回、県内の中学生から五百十一編のご応募をいただきました。

今回は、家族との体験や学校の授業を通して感じた地域の水に対する想いや、地球温暖化など環境問題が水循環に与える影響、日常生活における節水の具体的な方策などが述べられており、どの作品も、皆さんお一人お一人が、貴重な財産である水としっかり向きあって真剣に考えていただいていることが伝わってくるものとなっていました。

この作品集を読んで水について考えるきっかけにしていただくとともに、皆さんが身近にある美しい水環境を将来に受け継いでいく貴重な人材となられるよう願っています。

結びに、今回の作文コンクールに応募された多くの中学生の皆さんや担当の先生方に心から御礼を申し上げます。

令和四年十月

福島県企画調整部長　橘　清司

目　次

（作品は、各賞ごとの作者名の五十音順に掲載しています。）

優秀賞

私たちにできること　葛尾村立葛尾中学校　三年　伊藤　愛佳　1

青い星を守る水循環　福島県立会津学鳳中学校　二年　平塚　燈真　3

葛尾村の超軟水を守っていこう　葛尾村立葛尾中学校　二年　松本　彩楓　5

水は自然からの贈りもの　会津若松市立一箕中学校　二年　満田　栞音　7

一滴を守るすばらしさ　棚倉町立棚倉中学校　三年　八巻　天希　9

入選

水に習う　……　矢吹町立矢吹中学校　三年　有松　映柊　11
水のありがたさ　……　福島県立会津学鳳中学校　二年　遠藤　百恵　13
生き物達の水環境について　……　福島市立大鳥中学校　三年　掃部　夏央　15
水について考える　……　須賀川市立第三中学校　三年　小林　舞音　17
生きるための水　……　福島県立会津学鳳中学校　二年　朱　熙寧　19
生まれた環境と水　……　福島県立会津学鳳中学校　二年　髙橋　諒志　21
水のありがたさ　……　会津若松市立一箕中学校　三年　髙橋　愛可　23
私にとっての水　……　矢吹町立矢吹中学校　三年　吉田　葵　25
当たり前のように　……　矢吹町立矢吹中学校　三年　吉田　蒼　27
私たちにできること　……　矢吹町立矢吹中学校　三年　吉田　真彩　29
大切な水　……　須賀川市立第三中学校　三年　渡部　幹大　31

優秀賞

私たちにできること

葛尾村立葛尾中学校　三年　伊藤（いとう）　愛佳（あいか）

「ＳＤＧｓの目標達成のためにエコなタオル作りをしましょう。」

家庭科の先生の言葉で、私たちのエコで環境に優しいタオル作りが始まった。エコなタオルとは、「さらし」を使って作るタオルだ。

なぜ「さらし」でタオルを作るのかというと、通気性と吸水性を兼ね備えているからだ。家庭科の授業の中で、「さらし」の特性について先生から教わった。昔は、ラップ代わりに使われたことや、キッチンペーパーの用途として重宝されていたそうだ。

梅雨の時期に母が、洗濯物が乾かないと嘆いていたことを思い出した。バスタオルは大きくて分厚く、乾くには少々時間がかかる。生乾きになったり、雑菌が繁殖したりと衛生面でも心配がある。その不安を解消するのがこの「さらし」タオルである。

さらに、「さらし」タオルは、洗濯の際に使う水や洗剤の量も減らすことができる。生地が薄く、かさばらないのも特徴の一つである。それは、ＳＤＧｓの六番目の目標である「安全な水とトイレを世界中に」に繋がると考えた。節水することで有限である水を長く使えるようになる。それに加え、十四番目の目標「海の豊かさを守ろう」にも関連する。洗剤を減らすことで川や海へ流す生活排水量が減る。私たちの生活をほんの少し変えるだけで、未来がもっと明るくなるかもしれない。環境に優しい「さらし」で作ったタオルに変えれば、将来私たちが少しでも長く資源を使えるようになる。私たちの行動が十年、二十年後の世界を豊かな姿に変えていくのだ。

新聞やニュースでも日々、ＳＤＧｓに関する情報が飛び交っている。十五年の間に十七の目標を達成

しようと企業や自治体が取り組んでいる。大きな組織でしか動けないと思っていたＳＤＧｓの取り組みを自分たちでもできる身近なものに感じるきっかけになった。

「さらし」タオルの試作品を自分たちで試してみると生地がごわごわしていて普段使っているタオルと使用感の差が出た。しかし、使用していくにつれて使い心地も良くなった。薄いので水を絞って拭くこともでき、便利だという声も上がった。これなら、すぐに生活に取り入れることができると感じた。

修学旅行先で訪れた只見中学校で、ＳＤＧｓ委員会のみなさんから新聞紙エコバッグの作り方を教わった。マイクロプラスチックを減らす活動を率先して行っていた。只見町の商店街に作った新聞紙エコバッグを配付し、プラスチック製の袋を使わないように、一丸となって取り組んでいると伺った。私たちと同じ中学生でも町を巻き込んで活動していることに刺激を受けた。私たちもまずは葛尾村の中で「さらし」タオルの普及を目指した。

そこで、葛尾村の復興交流館に、自分たちの成果物を展示し、村民のみなさんに私たちの取り組みを知っていただくことから始めた。家庭科の授業の学びとして「さらし」タオルを作り始めたきっかけや「さらし」の特徴などをまとめ、タオルも展示した。また、福島民報新聞の意見投稿欄へも、この取り組みを先輩が投書した。投書がきっかけで福島市の女性からたくさんの布が学校に届けられた。同じ活動をしていて、役立てて欲しいということだった。とても心が温かくなり喜ばしい気持ちでいっぱいになった。こうした活動を通して繋がる輪を実感した。この輪をもっと大きく広げる可能性を見出せた気がした。

私たちが発信していくことで、「さらし」タオルの普及が広がり、少しずつでも水の大切さや、エコな生活を心掛けてくれる人が増えると嬉しい。未来は私たちの行動によって変わる。豊かな資源を守れるかは私たち次第だ。葛尾中学校の全校生徒は四名しかいない。私たち四名から出来ることを呼びかけ、世界中の大きな輪へ繋がるよう、行動していきたい。

優秀賞

青い星を守る水循環

福島県立会津学鳳中学校　二年　平塚（ひらつか）　燈真（とうま）

地球は、人間が調査した中で唯一、水のある惑星だ。地球の表面積の約三分の二は水で覆われている。「地球は青かった」という名言は、誰もが一度は聞いたことがあるのではないだろうか。

そんな地球には多種多様な生物が暮らしている。それらは地球の恵みである水によって生きている。植物も動物も、水を飲んで生きているのだ。水が生物の命を生かしている。

私たち人間も、水によって生かされている。それは胎児の時からだ。人間は胎児の時、母体の腹の中で羊水に浮かんでいる。これは様々な衝撃から胎児を守る働きがあるためであり、とても重要なものだ。また、人間の身体の約六〇パーセント、血液と脳の八〇パーセントが水で構成されている。さらに普段から水を摂取し、不要物と共に排出している。このようなことから、人間が水によって生かされているということはよく分かるのではないだろうか。

そんな地球の恵みである「水」だが、実は地球上には常に同じ量の水しか存在していない。海水や地表の水が蒸発し、上空で雲となり、やがて雨や雪となって地表に降り、それが地中や陸地を通って川へ集まり海に至るというように、絶えず循環しているのだ。生物は、この見事な繰り返しの中で、水と共に生きている。

しかし今、その地球上の素晴らしい水循環が崩れつつある。それは、私たち人間の手によって水循環が途中で遮られているのだ。例えば森林伐採。一見して水循環と関係性は無いように思える。しかし、森林の持つ多面的な機能には、洪水や渇水の緩和・水質の保全等があり、森林が伐採されることでこれ

らの機能が失われると、洪水や土砂災害が発生しやすくなるのだ。

また、工場や自動車等からの排気ガスが大気中で雨に溶け込むと酸性雨が発生する。この影響で水質が悪くなり、森林や農作物を枯らしたり、水生生物のすみかや命を奪ってしまう。

さらには、地球温暖化も水循環に悪影響を及ぼしている。水辺の地域では、水の蒸発が盛んになり温度が高くなる。温度が上昇することで雨が降りやすくなるため、降水量が大幅に増え、洪水や土砂災害が発生しやすくなる。一方、水の少ない地域では、大気の温度上昇により蒸発が盛んになる。そのため、深刻な水不足に陥ってしまう。

いずれかの場合でも、地球上の水循環に悪影響を与えてしまっては、健全な水循環が行われているとはいえないだろう。

今、このようなことが原因となり、水循環が崩れてきているのだ。人間の行いのせいで何億年も続いてきた素晴らしい水循環をこれ以上崩してはならない。そのために、これからの日常生活の中で、水循環への影響について考えながら行動する必要がある。例えば、森林の伐採は必要最低限にし、土砂災害等のリスクを軽減させる。排気ガスの発生を抑制するために、できるだけ自家用車での外出を控え、徒歩や公共機関での移動を行う。節電を心がけ、二酸化炭素の排出量を最小限に抑え、地球温暖化に歯止めをかける。他にも日常の中でできる対策が多くあると思う。

しかし、これらの対策は一部の人間のみが行うのでは、極めて効果は薄いだろう。日本人のみならず、世界の一人一人が率先して継続的に行うことがとても重要だ。人類が地球上に誕生し、様々な歴史と共に人間の生活はとても便利で豊かになった。その裏で、何億年も続いてきた水循環を崩し、多種多様な生物の命である水を奪ってしまっている。水循環を守ることが、宇宙で唯一の水惑星「地球」を守ることに繋がっていくのではないだろうか。

優秀賞

葛尾村の超軟水を守っていこう

葛尾村立葛尾中学校　二年　松本（まつもと）　彩楓（あやか）

私の住む葛尾村は、自然豊かで緑が溢れ、空気も良く澄んでいます。鳥のさえずりや、川のせせらぎ、山から吹く風の音も心地よく聞こえてきます。そんな葛尾村が大好きです。私は、こうした自然が豊かに広がる葛尾を守っているのは、水が関係していると思っています。

小学生の時に村内にある「金泉ニット」というニットの製造工場に見学に行きました。そこで作られるニットは上質で高級なものばかりです。私たちがお小遣いを出しても買えないようなものが作られています。葛尾村は東日本大震災の原発事故の影響で、今現在、村に住む人口は、三百三十五人と極めて少ないです。この場所でどうして高級ニットが作られているのだろうと私の頭の中に疑問が浮かびました。都会で作られそうな商品が田舎で作られるには何か理由があるのだろうと不思議に思いました。

なんとその秘密は、葛尾村の水にあったのです。葛尾村の地下水は、超軟水といって極上の水だったのです。硬度が低く、飲んでも口当たりがまろやかなことが特徴です。地下百三十メートルからくみ上げる超軟水は、毛糸を洗濯する工程において、とても重要な役割を果たしているそうです。ニットが滑らかで暖かみのある風合いに仕上がると教えていただきました。実際に触らせていただくと、肌に触れてもちくちくと嫌な感じはせず、ふわっと軽い感触が心地良かったです。超軟水は、とても珍しく高級ニット製品を作るために適しているそうです。そこで疑問に思っていたこともすっとふに落ちました。葛尾の超軟水からあの高級ニットが作られ、消費者に笑顔を届けていることが分かりました。

また、「せせらぎ荘」という宿泊施設では、その超軟水のお風呂に浸かることができます。雨水や雪解け水が長い年月をかけて浸透し、五十人山のふもとからくみあげられた超軟水は、とても貴重な水です。豊かな自然が質の良い水を生み出します。私も家族で入浴に訪れたことがありますが、肌がしっとりすべすべになり、リラックス効果も高く、いやされました。

葛尾村の地下水は村民の生活用水としても利用されています。私の家でも井戸水を利用しているので、毎日使っています。違う場所に出かけたときに水を飲むとその美味しさを実感します。発展途上国などの水道設備の整っていない土地、濁った水を飲み水として扱わなければならない状況を想像すると、なんてありがたいのだろうという気持ちでいっぱいになります。蛇口からおいしい水が流れ出ることは、当たり前になってしまっていて、その大切さをみんな忘れている気がします。

近年、水の枯渇や水質汚染が危ぶまれていると新聞やニュースで取り上げられていたことを思い出しました。海外の資産家が日本の水源地の山林を購入していたり、気候の変動でダムの渇水の恐れがあったりすると理科や社会の授業で、先生方から教わりました。今はこうして簡単に蛇口をひねれば必要な分の水を確保することができます。不自由ない生活を送ることができているので、誰もが水が出なくなるなんて思いもしないでしょう。

しかし、このまま水問題が深刻化すると葛尾村の地下水もいつ枯渇するか、汚れてしまうかわかりません。他人事だとは思わず、一人一人が真剣に受け止め、対策を考えていく必要があります。

私は、この先ずっと葛尾村に住んでいたいです。そのためには、水が必要不可欠です。私たちが使用する水を、毎日コップ一杯減らせば、その分、水を長く使えるようになります。わずかな節水もみんなで行えば、大きな成果に繋がるのです。これからも、葛尾村の自然を守り、超軟水を使い続けていきたいです。

優秀賞

水は自然からの贈りもの

会津若松市立一箕中学校　二年　満田（みつた）　栞音（しおん）

私の両親は、江戸末期に創業された会津味噌の専門店で働いています。名物の味噌料理や地元のお酒を楽しみに、多くのお客様が来店します。お店で食事をするお客様は、口をそろえて「会津はおいしい食べ物がたくさんあって、何を食べようか迷ってしまう。」と話してくれるそうです。母は「会津は自然にも気候にも恵まれているから、きれいで豊かな水がある。そのおかげでおいしい米も酒も味噌もできるんですよ。」と話しています。

私の住む会津は山に囲まれた盆地で、きれいな川が流れ四季の景色を楽しめる、自然豊かなところです。冬になるとたくさんの雪が降り積もり、厳しい寒さの日々が続くこともあります。冬が終わり、真っ白な磐梯山も雪が解ける頃になると、その雪解け水がゆっくりと時間をかけて、私たちのところへ巡ってきます。長い長い時間をかけてきれいな水が届けられる、そう思うと、私の知らないところで、大きな自然が私たちに与えてくれるものの大切さがわかります。

会津若松には自然や食べ物、歴史や伝統工芸などたくさんの魅力があるから、多くの観光客が訪れるのだと思います。それらを見えないところで支えているのが、自然がくれる豊かな水です。

会津に来た人たちが、米がおいしい、日本酒がおいしい、味噌がおいしいと言って喜んでくれるのも、会津盆地に降り積もる雪が解けて豊富な水になり、その水が田んぼに流れて稲が育ち、おいしい米ができるおかげです。その米で日本酒や味噌を仕込み、会津を代表する食べ物がつくられていく。そう思うと、厳しい冬も毎日のように降り続く雪も、今

までは寒くて冷たくて嫌いだと言っていたけど、私が好きな自慢の会津であるためには必要なものだったのだと受けとめられるようになり、少し見方が変わってきました。

今、コロナの流行によって、会津に訪れる人が少なくなってきています。両親の働いている店にも、行きたいけれど行けないという声も多く、自慢の味を楽しんでいただくことができません。でも、こんなときだからこそ、これまで大切に守ってきた伝統の味を残していかなければならないのだと思います。いつか安心して観光旅行ができるようになったとき、「会津はおいしい食べ物があるから何回も来たいです。」と言ってもらえるように、地道に準備しておくことが大事なのだと思います。

でも、おいしい米も酒も味噌も、すべては水にかかっています。おいしい食べ物を喜んで食べてもらうためには、会津の水を大事にしなければならないのです。

私が通う中学校の隣には、浄水場があります。猪苗代湖の水を原水とする会津若松の水は、この浄水場できれいにろ過され、私たちの家庭へと届けられています。最新の維持管理システムが導入され、私たちが安全な水を使えるようになっているのです。

自然の水は日々めぐっています。川や海の水は蒸発して雲になり、そこから雨や雪が地上へと降り注ぎ地下に染み込みます。それがやがて川や海に流れ込み、また雲になりを繰り返しています。そんな自然の流れの中で、私たちがゴミや生活排水で水を汚している。やがて浄化しきれない水が自分の元へ返ってくるような事態が起きるかもしれない。そう考えたら、ゾッとしてしまいました。水を守ることが、会津の食文化を守り、観光資源を守り、何より私たちの生活そのものを守ることになるのです。

会津の大きな自然が、私たちに与えてくれているものの大切さに気づいた今、会津で暮らしている私たちが水を大切にすることで、会津の良さをこれからも伝えていけるのだと思います。

優秀賞

一滴を守るすばらしさ

棚倉町立棚倉中学校　三年　八巻（やまき）　天希（あまね）

一滴、一滴と、蛇口から流れ落ちていく水。私はその水を、ずっと見つめていた。

水は、蛇口をひねればいつでも出てきてくれる。そんな水は、一体どこからきているのだろうか。ふと疑問に思った私は、水について詳しく調べてみることにした。

私たちが普段使っている水は、もともと川の水や地下水である。雨がたまってできた真水を、浄水場できれいにし、私たちの家に届ける。その後、使われた水は川に流れて海へ行く。水はこのようにして、私たちのもとに来て去っていくことを知った。

そんな水を世界規模で見ると、深刻な状況にある。世界の十人に一人、安全な水が手に入っていない。さらに、私たちが当たり前のように使っている、「透明な水」を知らない子どもたちがいるというのだ。地球は、「水の惑星」といわれているが、水不足に苦しむ将来が迫ってきている。私は、身近で実感することがないためか、縁遠い話題に聞こえていた。しかし、日本も今後、危険水域に突入すると予想されている。私は、この事実に驚愕した。

水を守るためには、具体的にどうすればよいかを、私も含め、多くの人が理解することが必要だと考えた。私は、普段の生活で、水を守るための取り組みをたくさん目にする。学校では、節水の呼びかけを保健委員が行っている。町内では、水に関するポスターが掲示されている。さまざまな取り組みがある中、共通することは、「節水」だ。しかし、「節水」という言葉だけでは、具体的にどんなことをすればよいか考えるのが難しい。水を身近で使う場面は、たくさんある。日々の生活をふり返ると、

料理や洗濯、お風呂などは、水を使ってできることだ。私は、身近な水を守るために、「節水」を具体化した行動を徹底したい。例えば、「歯磨きをしていて、口をすすいでいる間は水を止める」「シャワーは、流すとき以外は止める」などだ。このように、具体的に行動すれば、意識が高まると考える。

また、私たちのもとを去った水は、川に流れて海へ行く。私は、水の使い方だけではなく、水が使われた後のことも考えなければならないと思う。川や海には、たくさんの生き物が住んでいる。そんな生き物のすみかを、私たち人間が奪ってはいけない。また、川や海が汚れると、やがては人間の体にも悪い影響が出てくる。私たちは水を「生活用水」として使っているため、水を絶対に汚さないということはできない。しかし、水を汚さないための工夫はできるのではないか。水を汚さないための工夫を具体化すると、「食器などの汚れは、よくふき取ってから洗う」「生ごみは下水道に流さず、三角コーナーを利用する」などがあげられる。これらの行動は、意識すれば誰にでもできることだ。

水は、無限ではない。有限の資源である。私は、水がない世界を想像できなかった。なぜなら、蛇口をひねれば、当たり前のように水が出てくるからだ。しかし、その反対側には、私たちが使っている、「透明な水」を知らない子どもたちがいる。どんなに水が汚くても、その水を飲むことしかできない人たちがいる。ほんとうの「水の惑星」というのは、すべての人々が安全な水を使える地球のことなのだと思う。地球を守るためにも、水を大切にすることが必要だ。

これからは、水があることに感謝して、水を守る具体的な行動を徹底していきたい。また、世界には安全な水が飲めない人たちがいることを忘れず、水を大切にしていきたい。

教科書を閉じた私の耳に入ってきた、「ポタッ」という音。一滴、一滴と、蛇口から流れ落ちてゆく水。すぐに手をのばし、しっかり止めた。

入選

水に習う

矢吹町立矢吹中学校　三年　有松（ありまつ）　映柊（えいと）

小学六年生の時、水に関する衝撃な三つの体験をした。

一つ目、小学六年間、僕らの育成会では、田んぼの生き物調査を毎年行った。昔から沢水が流れる堀で、カワニナやトウキョウダルマガエルなど珍しい生き物が生息する田んぼだったが、周りが住宅地に整備されて堀に入る水が変わったせいか、年々生き物の種類も個体数も減って、とうとう珍しい生き物はいなくなってしまった。自然が壊れていく様子を見た。

二つ目、長崎で連立ソフトボールの試合をした。大事な準決勝だというのに、腕に力が全く入らなくて投げられなくなった。パートナーであるキャッチャーも腕がけいれんを起こした。僕らは炎天下での練習も試合も慣れていたはずなのに、少しの気温と湿度の違いと慣れていない熱帯夜で、肝心な全国大会で初めて脱水症状になった。水は、身体に必要不可欠だと思い知った。

三つ目、東日本を襲った台風は阿武隈川を氾らんさせて、僕の友達の家も、僕が通うスイミングスクールも、兄の高校も浸水して、ぐちゃぐちゃになった。いつもはあんなに浅く細く見える阿武隈川が、まさか堤防が決壊してこんな光景になるなんて。台風や大雨のニュースが身近でおこりうるとは思わなかった。

それまでの僕は、水といえば、大切だというのは分かっていたけど、当たり前にある生活の水やプールの水が思いつくぐらいで、あまり深く考えたことがなかった。だけど、この三つの体験で、命の水と水の怖さに気付いた。

人間の身体にも生活にも必要不可欠な水は、生き物にとっても同じことだ。開発は、生息地を奪うこともある。こうした自然破壊が、やがて異常気象を生んで僕たち生き物をおそい、また命や生息地を奪われる。水は僕たちをつくり、水は自然をつくる。自然と共存し、限りある資源を守るのもまた、僕たちだ。

「ＳＤＧｓ、十七の世界目標」は、エネルギーや自然資源や環境問題が関係する目標がたくさんある。汚染された水を飲んでいたり、水不足に悩む国、下水がなくて不衛生な国など、僕の知らない世界の水の問題もたくさんあって、一つの問題はまた違う問題と、とても関係している。

僕たちは、まず、一人一人が少しでも環境問題に興味を持つことが必要で、テレビで放送されている環境問題に関する特集や新聞に記載されているページをよく見て、環境問題に対する知識を得ることや、節水や節電をする、ゴミを分別する、ポイ捨てをやめて土地を汚さない、プラスチック製品の利用を控える。また、身の回りの環境を整えて、きれいな状態で生活を送ることができるようになるためには、トイレを汚さないこと、定期的に掃除をして清潔に保つこと、車で使用するエアコン、家で使用するエアコンの使用を控え、二酸化炭素の排出量を減らすこともまた、環境問題に取り組むことの一つだと思う。

個人ができる行動の一つ一つは小さくても、それが大きな影響を及ぼして地球のために、これからの未来になることだという意識を持ち、行動に移すことが、大事なことだと思っている。地球を守ることは、水を守ることと同じだと思う。

入選

水のありがたさ

福島県立会津学鳳中学校　二年　遠藤（えんどう）　百恵（ももえ）

水の色は何色なんだろうか。ある人は「水色」と答えるかもしれないが、ある人は「茶色」と答えるかもしれない。私は、本当の水は何色なのだろうと時々思う。水の色は、「透明」であると思う。なぜなら、水は様々なかたち、色などに変化し、人間や動物などの世界全体でなくてはならない存在にあるからだ。もし、この世から水が無くなってしまうとしたら人類や生き物はどんな反応をするのだろうか。現代世界での水の在り方は国々ごとに違うだろう。例えば、日本はアフリカなどの他の国と比べて水がきれいで、いつも使いたい時にすぐ使える環境にある。だから、日本人は「水」がどれだけ貴重で大切かを考えない人が多くいるのではないだろうか。それと比べてアフリカでは「水」はどのような存在なのだろう。きっと私の想像を上回るほど尊いものなのでは…と感じている。私たち日本人は一つ考えなければいけないことがあると思う。それは、「節水」のことで、これからの将来に向けてとても大事なことだと思っている。

「魚の目に水見ず」ということわざがある。これは、身近にあって、自分にかかわりの深いものはかえって気づかないことという意味である。本当に今の水の利用の仕方が正しい使い方なのだろうか。

「水に流す」という慣用句があるが、私は一番好きである。過去のいざこざなどをすべてなかったことにするという意味なのだが、人は簡単に気持ちを変えてしまうことだってある。そう簡単にはできない。自分のことであれば早く消したいと思うが、他の事だとなかなか、なかったことにはできないと思う。でも、心の器を広げ、成長につながることだか

ら、私は好きなのである。

私は、皆に、「水」はどれだけ大切で、どれだけ身近なパートナーであるかを伝えたい。そして、日々「日常」を送れることは、だれかの水を守り続ける『頑張り』があるからだということを分かってほしい。

私は正直、私一人が節水したところで何も変わらないのではないかと思っていた。しかし、世の中には蛇口なんて存在しない国が多くあること、水がきれいではなく、病気になりながら汚い水を使っていること。つまり、安心して水を飲める国は限られていることを中学に入り、深く考えるようになったのである。日本でも時折、水不足の予測でニュースに流れることがあるが、日本人でもあたり前だと感じている日常は他の国と比べると、日本人の努力の上に日常が維持されている事がわかって感謝に思う。蛇口をひねればすぐに水は出てくる。あたり前のようにお風呂に入り、トイレへ行き、顔を洗う。これが、幸せなことだということに気づいてほしい。私たちの目に見えない部分に下水処理場や浄水場があるが、下水処理場はどうしても汚いと思ってしまうが、下水処理場がなければ日本は感染症などが多発してしまうだろう。

また、浄水場もないと蛇口からきれいな水が出なくなってしまうのである。中には、井戸水といったような人工で作られてはいない天然の水もある。

人間は、体の約七十パーセントが水でできているのだから、「水」がなければ生きていけない。つまり、「水」は生命にとってかけがえのない存在だ。水がいつ、どこでどのようにしてきえてしまうかなんて、だれも予想しないだろう。それは先人たちが水に対して維持しながら、新しい開発も続けてきてくれたことの結果だと思っている。だから、日本は素晴らしい国なのである。先人たちが私たちを守ってくれたことに私は感謝している。

「水は何色なのだろう」この答えはだれにも分からない。それは、多くの人たちの思いが込もった尊いものだから。

入選

生き物達の水環境について

福島市立大鳥中学校　三年　掃部（かもん）　夏央（なつお）

みなさんは、「水」というと何を思い浮かべますか。飲むための水、空から降る雨、広大な海など色々なものが出てくると思いますが、僕は真っ先に様々な生き物がくらす水辺、川や海などを思い浮かべます。

僕は小学生の頃から魚が好きで、休みの日は近所の川へ行き、網で魚を採ったり、魚釣りをしたり、そうでないときでも下校中に橋の上から魚が泳いでいるのを眺めたりして、日常的に川の魚とふれ合う生活をしていました。川には色々な魚がいて、イワナやヤマメ、アブラハヤなどたくさんいるものから、アカザやイトヨなどのめずらしい種類のものまで見られ、川やその周りの自然がとても豊かだということを感じさせられました。

僕は、中学生になるまでに色々な地域の川や池を見てきましたが、その中で、生き物の少ない水辺と生き物の多い豊かな水辺の違いが分かるようになってきました。水がきれいで岸にたくさん草が生えているようなところは生き物が多く、コンクリートでかためられ、きたない水が流れているようなところは生き物が少ないという感じです。そして、僕が見てきた中でも生き物の多い豊かな水辺は、生き物の少ない水辺よりも少ない気がします。これは、僕の勘違いかもしれませんが、みなさんも、たくさん魚が泳ぐ豊かな川よりも、コンクリートでかためられた生き物の気配の無い川の方がよく見られると思います。これはなぜなのか、僕は考えました。一つは、近年増えてきた豪雨による災害への対策が原因だと思います。雨による増水で川がはんらんしないよう川幅を広げ、さらに水が流れやすいように木や

草などを取り除いた結果、生き物の住む場所がなくなってしまったのでしょう。そして、もう一つ挙げられるのは、僕たち人間の、意識の低さだと思います。以前、別の地域に魚採りに行ったとき、家庭排水がそのまま流れている水路を見たことがあります。下水処理の設備が整っていないこともあり、ひどい悪臭で、もちろん魚や生き物の姿はありませんでした。それが川にそのまま流されていたので、その川の生態系にも影響がでていると思います。

こういった問題を解決するには、僕たち一人一人が意識して行動することが大切だと思います。食器洗いのときに油を吸い取ってから洗ったり、洗剤を使いすぎないように注意したり、川にゴミを捨てないなど色々できることがありますが、まずは、たくさんの人に川や海などの様々な生き物たちのことを知ってもらうことが重要だと思います。水の中の生物のくらしを知れば、川や海を汚すなんてできなくなるはずです。もうこれ以上、生き物のいない寂しい水辺が増えないことを願います。

中学生になってから、僕は川よりも海に通うことが多くなりましたが、港では、マスクやビニール袋などのゴミがまとまって浮かんでいるのをよく目にします。また、カツオ漁船が入っているときは、とれた魚を入れていた水そうの水を海に流すため、港のまわりはひどい悪臭で、漁師さんは、海も汚れるし船も汚れるので大変だと話していました。ゴミや漁船の排水などの問題も解決するのは難しいと思いますが、これもやはり一人一人の意識だと思います。川や海などの水環境を守ることは、僕たちの生活にかかせない水を守ることにもつながります。みなさんも、この機会に川や海などの生き物について調べてみてはどうでしょうか。きっと考え方が変わると思います。

入選

水について考える

須賀川市立第三中学校　三年　小林（こばやし）　舞音（まお）

私は、今まで、「水」について深く考えたことがありませんでした。ですが、これをきっかけに「水」について少し考えてみました。

私の家では、水を必要以上に使ってしまいます。手を洗っているとき、歯を磨いているとき、お風呂に入っているときなど、たくさん水を使ってしまいます。私が、特に水を多く使う場面はお風呂のときです。主に、冬の時期になると寒くてシャワーのお湯を出しっぱなしにしてしまいます。しかし、水道代もかかるため最近は必要なときだけ水を使うように心がけています。

私のお母さんと妹は、食器洗いに使う水や歯を磨くときの水のむだ使いが多いです。

このように、家族・友達・自分自身が普段当たり前のように使っているたくさんの水が使えない国の人々もいます。自分達のせいで水が足りていない、と思うと心が痛みます。私の友達の祖母はよく、「蛇口を開けば安全な水が出るのを当たり前だと思っているだろうけど、それはすごくぜいたくなことなんだから、もっと水を大切にしなさい。」と言っていました。友達の祖母の実家は、瀬戸内海の小さな島にあると言っていました。小さな島のため、川もなければダムもなく、昔は水道もなかったらしいので各家庭で井戸を掘って、井戸水を飲料用はもちろんすべての生活用水として使っていたそうです。水質検査も不十分で、特に雨の少ない夏には水に塩からさを感じ、湯沸かし器なども塩分でさびが出て傷むのが早かったとのことでした。生水を飲むことは考えられず、いつも一度沸かしてから、冷ました水を飲んでいたそうです。

それでも井戸水が十分にあるうちはまして、雨の少ない瀬戸内地方のため、真夏になると、井戸水が激減するので、苦労したとのことでした。とにかく、徹底的に節水に努めたと聞きました。

歯みがき中に水を出しっ放しにしない。米のとぎ汁は花だんや家庭菜園にまく。風呂の残り湯は洗たくに使う。エアコンの室外機から出る水もバケツにためておいて、打ち水に使う。そういうことを祖母は当たり前にやってきたと言っていました。

現在は、蛇口を開けば安全な水が出る生活にはなったが、やはり水道のない生活を知っているだけに、水に感謝し大切にする気持ちを常に持ち続けているそうです。

友達も祖母に注意される度に、水に対する意識が高まったらしく、水を大切にしようという気持ちが強くなってきた、と言っていました。私も、友達やその祖母を見習って、水の出しっ放しなどをしないで、身近なところから節水に心がけるようにしている。

また、世界に目を向けてみると、発展途上国のアフリカなどには、一日わずか五リットルの水で生活しなければならない地域もあります。現在、日本人は工業用水、農業用水、生活用水など全てを含めると一人あたり一日に約二千リットルもの水を使っていると分かりました。

「水」は命の源であり、大切な宝物である。十分な水を得ることができなかった時代の人々のことや、今でも飲み水を手に入れるのにさえ苦労しているような国々の人々のことを考えながら、「水」を大切に使っていこうと思います。

入選

生きるための水

福島県立会津学鳳中学校　二年　朱（しゅ）　熙寧（きねい）

「水」と聞いて頭に思い浮かんだのは、「星の王子さま」という本だった。星の王子さまは、私が最近読んだ本の中で一番心に残った一冊だ。水と本が何の関係があるのかと思うかもしれないが、ある場面で水について考えさせてくれた。ある場面というのは、この本の著者であるサン＝デグジュペリが星の王子さまと一緒に砂漠で井戸を探すという場面だ。何も見えない、何も聞こえない美しい砂漠を何時間も歩き続け二人は井戸をみつけることができたのだ。星の王子さまは「水は心にもいいんだよ」と言っていた。私はまったくその通りだなと思った。砂漠の中を一生懸命に歩いて探し求めた水は、その一滴、一滴が渇いたのどを潤すだけでなく、疲れた心をいやし、満たしただろうなと思った。実際にも経験した事がある。例えば、真夏の暑い日に学校から帰ってきてクーラーのきいた家に入り、冷たいシャワーを浴びた時。あの時私はゲージから解放され、空へ飛び出した鳥のような気持ちになれた。また、定期テストの勉強をしていた時、母が「がんばってね」と言い残しながら隣に置いていってくれたおいしいハーブティを飲んだ時には心が温められ、がんばろうという前向きな気持ちにもなれたのもおぼえている。

しかし、昔の事を考えているうちに他の事で頭がいっぱいになっていた。日本ではいつでも好きな時に水を買う、飲むことができるが、星の王子さまのように長い道のりをかけてやっと水が得られる国の人々もいる。このことを考えていた私は五年生の時に水不足の事を学んだ授業でみた動画を思い出した。その動画は二人の女の子がはだしで家族のため

に遠い山へ水をくみに行くという内容だった。くみ終えたタンクを頭にのせ家に帰る二人の姿は私の心の何かを打った。家に帰り、もっと水不足について調べてみたいと思った私は衝撃の事を知った。現在、世界の約七億人が水不足の状況で、また不衛生な水しか得る事ができない事によって毎日約八百人の子ども達が亡くなっているのである。当時の私にとってはすごく驚いた事実だった。

今地球で人々が飲める水の割合は全体の0.001パーセントである。その他の水は海水やたん水で人間が飲むには適していない。しかしその水を生きるためにどうしても飲まなければいけない人もいてインターネットによると汚れた水を飲むと肺炎などさまざまな病気に感染しやすくなってしまうそうだ。もし自分が少しだけでも冷たいシャワーをあびるのをがまんしたり、水を出したままにしなければ、世界で何人の人達を死から救えるのだろうかと思う。そして何人の子供達を水をくみに遠い所へ足をはこばずにすんで、学校で教育を受けさせてあげる事ができるのだろう。

今の私には、節水、募金・寄付をすることしかできない。しかしこの二つをすることで人々に必ず役に立つことができる。ユニセフによると三千円募金をすることで汚れた水をきれいにする浄水剤約七千錠に変わるそうだ。また、私は将来、医師になるという夢がある。日本だけではなく、外国でも活やくができたら、何人の人々を救えるだろうか。

世界の一人一人には水を飲むという権利があるが、むだにして良いというルールはない。いつか地球に住んでいる人がみんなルールを守ればよりよい世界をつくれると思う。地球に住む一員である私ができることはほんの一部しかないが、他の人々に「つたえる」ことで大きな進歩になる。チーム地球のメンバーとして自分ができることをなしとげていきたい。

入選

生まれた環境と水

福島県立会津学鳳中学校　二年　高橋（たかはし）　諒志（あきゆき）

僕たちが住む日本という国では水道の蛇口をひねれば簡単に水が出てくる。そして、日本ではどこの水がきれいで美味しいかなどの評価があり、それによってその土地で作られる物や企業が変わったりしている。しかし、このように水を飲んだり、使ったりすることが当たり前になり過ぎて、水の大切さ、水の価値を忘れてしまっていると思う。

僕は、水は本来もっと大切に使うべきだと思う。水は、人間が生きていく上で絶対に欠かせないもので、無駄に流されるためにあるものではない。視点を変えて、世界的に見ると水道水が飲める国は、世界百九十六か国中、たったの十五か国と少ない。主な原因として、国土の面積やコスト面が問題となっている。そして、水道水が飲めない国や飲めるが水質が安定していない国では、主にペットボトルのミネラルウォーターや市販の水を購入し、使用されている。この大量のペットボトルの使用によって地球温暖化を増進させてしまっている。さらに発展途上国では水道自体がない国や深刻な水不足に悩まされている国も少なくない。特にアフリカ諸国に集中している。そして、この国々では、毎日、学校も行かず子どもたちが池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいる。毎日子どもたちが汲んでくる水は、安全な水ではない。だいたいは、泥や細菌、動物のふん尿などが混じっている。しかし、このような水でも飲まなければいけない。だが、この水によって毎日、八百人もの子どもたちが命を落としてしまっている。このような環境は絶対に変えなければいけないと思う。世界中に安全な水を届けなければならないと思う。このような人たちの力にな

るには、募金をするなどがある。しかし、一番大切なのは、その人たちのことを考えながら水を大切に使うことだと思う。水が簡単に手に入る環境に生まれたこと、安全で美味しい水を毎日飲める幸せなどをしっかりと感謝することが大切だ。

ここまで、日本人が水の大切さを忘れているなどと書いてきたが、僕も例外ではない。皿などを洗うときにずっと水を出していたり、学校に持って行った水筒の残りのお茶をそのまま捨ててしまったりなど。やはり、意識して無駄使いしないようにしているが、細かな所では無駄に使っている部分がある。これに関しては直そうと思っても少しは起こってしまうことだと思う。だから、水を使いすぎないようにしようという気持ちを持つことが大切だと思う。そうすれば、少しは減ると思う。これは僕の家での事だが、最近は洗い物の時に大きなボウルに水を入れ、そこに食べ終えた食器を入れ、しばらくして洗うという方法で洗い物をしている。水筒の残りのお茶は、夜ご飯の時に飲んだり、そのまま塾に持っていくなどしてお茶を飲み切っている。このようなささいなことでも、毎日くり返したり、色々な家庭で行われれば、だんだんと水の使用量は減っていくと思う。「水がたくさんあるから使う」ではなく「みんなが使えるように最低限の量を使う」という意識に変わっていけばいいなと思う。

僕は今回の作文を書いたことで、改めて水不足の国のことや日本での生活がどれだけ楽かなどを知ることができた。僕は、生まれた場所だけで、学校に行けなかったり、危険な水を飲まなければいけないというのを無くせればいいと思う。そのために、水をもっと大切にして欲しい。

入選

水のありがたさ

会津若松市立一箕中学校　三年　髙橋（たかはし）　愛可（まなか）

手を洗うとき。料理をするとき。洗濯をするとき。お風呂に入るとき。蛇口を開ければすぐに出てくる「水」は私たちの生活に欠かせない大切な資源である。しかし、当たり前にあるからこそ、その恵みに気付かずにいる。

先日、テレビを見ていたら、「一度使われた水がまた今と同じように使われるのには約二十年かかる」という話を聞いた。普段何気なく使っている水も、自然界へ戻り、私たちのもとに帰ってくるまでには長い年月がかかるのだ。しかし、水がもう一度私たちのもとに帰ってくるには「浄化する」必要がある。

小学校四年生のとき、私は学校の体験学習で浄水場に見学に行ったことがある。そこでは、自然の恵みである水を人々が安全に使うことができるように、厳しく管理された場所で色々な人が苦労して一生懸命働いている姿を目にした。私はそれを見て「とてもありがたいな」と感じたことを覚えている。このように、「浄化する」ことには色々な人の手間と労力がかかっているのだ。

また、私たちが生きていくうえで大切な米や野菜などの作物も、水がないと育たない、ということも忘れてはいけない。

では、この地球から水が無くなってしまったらどうなるだろう。生きるのに必要不可欠な水や食物が失われ、手を洗うことや洗濯をすること、お風呂に入ることなどもできなくなる。地球の自然関係のバランスも崩れ、自然環境が最悪になってしまう。つまり、暮らしが成り立たなくなるどころか、地球が崩壊してしまうのだ。そう考えると改めて水のあり

がたさを感じる。私たちはいつも水の恵みを受けて生きているのだ。

しかし、今までの私の行動を振り返ってみると、「すぐ使うし、少しの間だけだから」と水を出しっぱなしにしていたり、水筒の水やお茶をほとんど飲まずに捨ててしまったりなど、水を大切にしていなかったことに気付いた。一回一回水を止めるだけなのに、飲まないのなら最初から水筒を持っていかなかったり、量を少なくしたりすれば良いだけなのに、深く考えることなく行動してしまっていた。水のありがたさに気付かずに多くの水をムダにしてしまったのだ。

私は今まで、水を節約するのは水道代がもったいないからだと思っていた。しかし今は、水を節約することは、水道代を節約するだけではなく、貴重な自然の恵みを大切にし、水が水道水として私たちのもとへ届くまでに関わった多くの人の想いや労力をムダにしないことだと思うようになった。いつも当たり前にある水も、なくなってしまったら自然が成立しなくなり、私たちは生きていくことができなくなる。また、水を当たり前のように使うことができているのも、誰かが、顔も名前も知らない私たちのために苦労してくれているからである。

だからこれからは、水は決して当たり前にあるものではないこと、私たちは水に支えられて生きていることを忘れずに、蛇口を開ければすぐに水が出てくること、それを普通に使えていることに感謝して生活していきたい。また、これらのことを家族や友達など、身近な人にだけでも少しずつ発信していき、みんなで節水を心がけ、水や地球を維持することができるような、よりよい社会を目指していきたい。

入選

私にとっての水

矢吹町立矢吹中学校　三年　吉田（よしだ）　葵（あおい）

「葵、見て。これ今月の水道代。ほとんど葵が使った水の量の金額だよ。もっと考えて水を使いなさい。」

この言葉は、毎月、母から聞かされるもの。確かに、家族の中で私が一番水道やシャワーを使っている自覚はある。そこで、私は、普段どのような場面で水を使っているのか、どうすればもう少し水道代を安くできるか考えてみることにした。

まず、日常生活の中で水を使う場面についてだ。朝起きて、まず洗面所の水道で顔を洗う。その時、私は冷たい水を温かくするため水を出しっぱなしにしている。これも母に怒られる原因の一つだ。次に歯を磨く時。学校に行って、手を洗ったり歯みがきをしたりする時。給食や体育の後に水を飲む時。帰宅して手を洗い、うがいをする時。お風呂の時。寝る前に歯みがきをする時。日常を振り返ると、多くの場面で水を使用し、水と接している。しかし、それぞれ水を使う目的は違う。例えば、手を洗う時はせっけんを泡立てるため、泡を流すために使われる。また、うがいの時は、口の中の菌を流し、感染予防をするために使われる。それぞれの場面で、違う目的で臨機応変に使い方を変えられる水ってすごいなと思う。料理の材料になったり、飲み物の原料になったりと水は生活の中でとても重要なものだと思う。私は、そんな水をこれから先ずっと大切に使っていきたい。

次に、どうすれば水道代をもう少し安くし、母に怒られないようにするかだ。もちろん水道代を安くするために水を無駄遣いしないことが一番大切なのだと思う。しかし、冬は冷たい水で顔を洗ったり、

手を洗うのはかなりきつくないだろうか。だから、私は、母に聞いてみた。

「ねぇ、どうやったら水を出しっぱなしにしないで、冷たい水を温かい水に出来る？」

と。そしたら、母は、

「水を出す取っ手を水出す前に赤いメモリの方に動かしてから水出せばいいでしょ。」

と言った。私は確かになと思った。それを次の日から実行したら明らかに水を出している時間が短くなった。お風呂に入る時には、なるべく湯船のお湯を使ったり、定期的にシャワーを止めたりなど工夫をするようになった。その工夫を、家族で共有し家族みんなで節水を心がけるようになった。家族みんなで共有して何かをするっていいなと改めて思った。来月の水道代が少しでも安くなっていると嬉しい。

　このように、日常で水に接する場面が多かったり、節水について家族で考えたりなど水は生活の中で関わりが深く、これからもずっと関わっていく大切なものだと思う。そして、私は、水に関わる仕事をしている人に感謝をしたい。排水溝の掃除をする人や水道の水にするために水をきれいにしている人。私たちはその人たちのおかげで毎日、普通に生活できていると思う。私は、自分がケガなく病気もせず楽しく生活できていることを普通と思わず、誰かを思って仕事をしている人がいるからということを忘れず、生活していきたい。また、自分が将来、仕事をする立場になった時に誰かが普通に楽しく生活できるような仕事をしたい。私が安全に生活できるように仕事をしている方々、本当にありがとうございます。私が大人になって仕事をする立場になった時、誰かの生活をサポートできる仕事をします。

入選

当たり前のように

矢吹町立矢吹中学校　三年　吉田（よしだ）　蒼（そう）

僕の一日は、朝起きることから始まる。僕の場合は、その後にトイレへ行き、顔を洗い、朝食を済ます。そして、歯をみがき、着がえをしてから、学校へ行く。僕はサッカー部に入っているので、朝練をやる。水を飲む。朝起きてから学校の中へ入るまでに、何回水を使っただろうか。数えてみたところ、四回ほど使っている。その中で、料理や洗濯などで使う水も合わせると、四回などでは収まらない。歯をみがく時もそうだ。一日に三回はやると考えて、百歳まで生きると考えると、十万回は軽く超えてしまうであろう。

このように、僕たちは、毎日、膨大な量の水を使っている。水は、これから生活していく上でもなくてはならない物だと思う。だから、これからも、水を大切にしていこうと思う。

だが、そんなことは当たり前である。

水を大切にすることは当たり前だ。小さい頃から「水を止めなさい。」「少ない量を使いなさい。」などと、頻繁に言われてきた。ましてや、最近ＳＤＧｓなどで、水への節約がさかんに呼びかけられている。このような状況の中で、「大切にしよう。」と思わない人がいるとは思えない。今、考えるべきは、対策と、その対策の実行だと思う。

初めに書いた朝やることで考えると、顔を洗う時に水をあまり出さないこと、歯をみがく時に水をこまめに止めること、飲める量の水を持っていくことなどを考えた。これらのように細かく考えることで、何をするべきか明確になるため良いと思う。

次の日に、これらを実行してみた。試してみると、あまり不便と思わなかった。

考えてみたところ、僕の場合は、一番水を使っている時は、シャワーを浴びている時だと思う。極端な話、頭などを洗っている時に、水をずっと流していると、湯船一杯分くらいの量の水を捨てているのではないだろうか。

このように、細かく決めたことにより、以前よりも効率的に節約できたと思う。

「水を大切にすることは当たり前だ。」と書いてきたが、それ以前の人々もいる。つまり、水を自由に使うことができない人たちだ。

調べてみると、水を自由に使えない人は、約六億六千三百万人いることが分かった。その人々は、危険の多い水を使って生活している。しかし、よく広告で目にするユニセフというボランティア団体などによって、きれいな水を使える人々が増えたことを知った。

ここまで、水を使うことについて書いてきたが、水は使うだけの物なのだろうか。水は、生き物の家でもあるのだ。

水は海として、地球の約七割を占めている。とても広い場所だ。そのため、人は「水が無限にある」と思ってしまっているのではないだろうか。無限とは思っていなくても、自分が生きている間は無くならないと思いこんでいる人は多いと思う。僕は無くなることはなくても、使えなくなることは、十分にあると思っている。

海は広い分、影響を受けやすい。人がもたらす汚染水、工場排気ガスによる地球温暖化、これらによって自分たちの生活にも大きな被害が出てしまうかもしれない。こうなってしまっては自業自得だ。こうならないためにも地球上に住む人々が、「当たり前」のように自然環境を維持する取り組みをして欲しい。

インターネットで調べてみると、「当たり前」という言葉の対義語は「有り難い」だった。なんだか意外な感じがしたけれど、なぜだか、すんなり胸に入ってきた。環境保全に取り組んでくれている人々に「水を当たり前に使わせてくれて有り難いです。」と僕は伝えたい。

入選

私たちにできること

矢吹町立矢吹中学校　三年　吉田（よしだ）　真彩（まあや）

「水って何処から来ているんだろう？」

私はこんな疑問を持った。普段当たり前のように使っている水だが、知っているようで実は知らない人も多いのではないだろうか。そこで、私は水が何処から私達の元へ来ているのか調べてみることにした。

まず、私たちが生活で使う水の源は空から降ってくる雨水なのだ。その空から降る雨水は川となりダムに貯められる。そこから取水場という場所でダムの水をくみ取り水路を通って浄水場へ運ばれる。浄水場へ運ばれた水は浄水処理が行われ、安心安全に飲める水道水がつくられる。浄水場できれいになった水道水は、配水場という場所で一時的に貯められる。そこから各家庭の蛇口につながる給水管へ運ばれ、私たちの元へと届いている。

さらに、私たちが使用した水、生活排水は、下水処理施設で、泥などの汚れを取りのぞいた後に消毒などの様々な手間をかけて海へと戻される。その海の水はやがて大気中へ蒸発し、雲となりその雲がまた雨を降らせる。というループとなっている。

このように、水が私たちの元に届くまでには、様々な手間がかかっているのだ。さらに、安心して飲める水が水道から出てくるのは、全世界百九十六ヶ国のうち十五ヶ国とすごく少ないのだ。私たちにとっては生きるための水だが、世界をみわたすと水を飲むことで亡くなってしまう人々もいるのだ。

このような様々な事実を知って、蛇口をひねって水が出てくるのは、当たり前のことではないんだなと実感した。

そこで私は、自分にも何かできることはないだろ

うかと考えた所、思いついたのは、水を節約して使ったり、水をきれいに使うことだ。

安心して水が使える。そんな日本だが、水にかかわる問題は、やはりいくつかある。その問題とは、川を流れる水量の減少や、渇水の頻発による水の循環にかかわる問題だ。このような問題の背景には、私たちの生活や産業による水の利用の増加や地球温暖化による気候の変化や人口の減少や高齢化により正しい森林のかんりができなくなっているなどの人口的な問題により、日本の水が汚れてきてしまっている。

このような問題を解決するため、水を出したらとめる。使わない時はとめる。必要以上に、水を出さない。トイレを流す時は、大・小の使い分けをする。洗濯はお風呂の残り湯で行う。かみの毛を洗っている時は水をとめる。食器・フライパンを洗う時は油汚れをふきとってから洗う。食べ残しなど小さなゴミは、生ゴミへ。米のとぎ汁は、植物の水やりに。など、かんたんな事でも、水を節約するために、きれいに使うためにできることは、こんなにもたくさんあるのだ。

さらには、地球温暖化を防ぎ、森林を守るために私達にできることは、エアコンの設定温度は低めにする。使わない電化製品のコンセントは抜いておき、電源も切る。誰もいない部屋の電気は消しておく。テレビはつけたままにしない。買い物に行く時は、マイバックを持参する。リサイクルを積極的にする。冷蔵庫は、開閉を少なくし、物をつめこみすぎない。近くに行く時は、徒歩や、自転車で。詰めかえ商品を買う。植物を育て、みどりを増やすなど、たくさんあるのだ。

このように、水がどのように私たちの元に届いているのかを知り、水を大切にする人が増えたらいいなと思った。

入選

大切な水

須賀川市立第三中学校　三年　渡部（わたべ）　幹大（かんた）

人の約五十％～七十％は水です。そして、人間は水を飲まなければ三日で死ぬと言われています。それほどまでに人間の生活に欠かすことのできない水ですが、今、その水が大変なことになっているということが冬にテレビでやっていたので、興味をもち、書いてみることにしました。

まず、地球の七十％は水です。地球には海が広がっていて、それで、かの有名なユーリィ・ガガーリンは、人類で初めて宇宙に行った時に、「地球は青かった。」と言っていました。そんな海の水、海水は、人間には飲むことができません。塩分が含まれているからです。その海水は地球の水のうちの九十七％をしめています。そして海水を除いた三分の二の水も凍っていたり、地中に埋まっていて、簡単には使えないのです。そのことを知って、僕は、おどろきと、強いショックを受けました。水なんていくらでもあるし、海はなくならないし、と今まで、気軽に使っていた水が、重く大切なものだと気づきました。そして、さらに調べてみると、僕たちが使える水は次第に減っていってしまうと書かれていました。それを見て、僕は、今のままでいいのだろうか。いや、水への認識を変えるのは今だと思い、水を見つめ直すことにしました。

まず、日ごろ使っている水のむだな所はないかを考えてみることにしました。考えてみるとたくさんのもったいない所があることが分かりました。たとえば、朝、顔を洗うときです。起きてすぐだと、ボーっとしていて、つい水を出しっぱなしにしてしまうことがあります。歯みがきの時にも、テレビやスマホについつい目がいって、水が出しっぱなしにな

ることもあります。なので、僕は、意識を変えることにします。この水は将来、地球がすみやすい環境でいられるようにするための第一歩だと思って水を使います。

次に、水の出しっぱなしで、週にどれくらいの量を使うのか考えてみました。歯みがきで三十秒出しっぱなしにすると約六リットルもの水がむだになります。ということは、六リットル×七日間で約四十二リットルが、一週間でむだになります。これを約千人がむだにすると考えると、とても大変なことが分かります。ですが、逆に考えてみると、その出しっ放しを防ぐだけでも、大切な水が、四万二千リットルも節約できるのです。ちりもつもれば山となるということわざがありますが、少しの努力で、こんなにも変わると知っておどろきました。コツコツと、少しの意識で、世界を、地球を変えることができるのではないかと思います。

今回、水について考えて思ったことは、みんなで協力してつみ重ねていくことの大切さです。一人一人が小さなことを意識して、初めて、水がよりよく使われていくのではないかなと思いました。そこで僕は、周りがやらないから自分でもやらないのではなく、まず自分から変わっていこうと思いました。このことは、日ごろの生活や部活動でも大事なことだと教わっています。人を動かしたければ、まず自分が動く。何かをしたければ、まず、率先して動く。このことが今の地球を支えることだと思います。具体的な方法については、こまめに水をとめて、必要になったらすばやく使う。お風呂の水を別のものにも活用するなど、自宅ですぐに実行できることを、コツコツやるなどです。まずは、簡単にできることを自分から忘れずに行って、一つ一つ、つみ重ねていこうと思いました。それから、周りの人と協力して、地域や国、地球全体で一丸となってこの問題をいっしょに考えていけばよいのではないかと考えました。

これを書いて、水に対する見方が変わりました。大切に、今ある水を使っていこうと思いました。

第４４回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」の概要

今回は、県内の中学校１６校から５１１編の作品の応募があり、その中から入賞者１６名、学校賞６校を選定しました。

＜応募作品数＞　（単位：編）

中　学　校　名	２学年	３学年	計
会津若松市立一箕中学校	３	２	５
いわき市立植田東中学校	３１	３１	６２
いわき市立桶売中学校	２	１	３
いわき市立三和中学校		１２	１２
大玉村立大玉中学校	１	１	２
葛尾村立葛尾中学校	１	１	２
郡山ザベリオ学園中学校	６	１	７
須賀川市立第一中学校	７	６	１３
須賀川市立第三中学校	１	２５	２６
須賀川市立大東中学校	１		１
相馬市立中村第二中学校		１	１
棚倉町立棚倉中学校		１	１
福島県立会津学鳳中学校	８６		８６
福島市立岳陽中学校		３	３
南会津町立南会津中学校		１	１
矢吹町立矢吹中学校	１４６	１４０	２８６
計	２８５	２２６	５１１

（学校名５０音順表記）

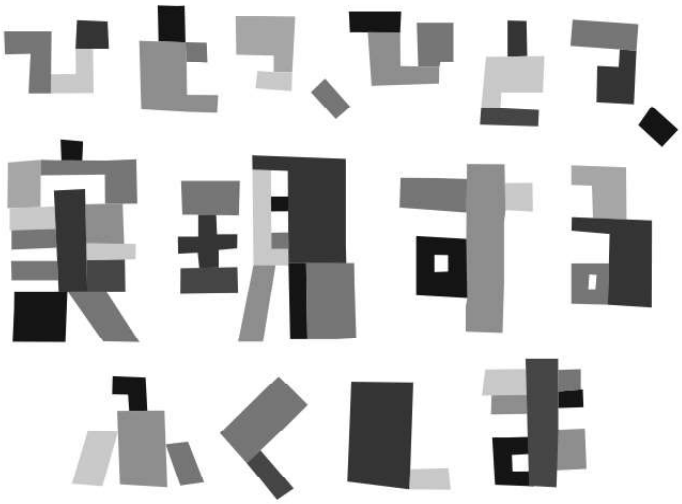
＜学校賞の授与＞

優秀な作品を多数応募した学校や、コンクールに積極的な取組をした学校に対し学校賞を授与しています。今回は、以下の６校を学校賞に選出しました。

いわき市立植田東中学校、いわき市立桶売中学校、いわき市立三和中学校
葛尾村立葛尾中学校、福島県立会津学鳳中学校、矢吹町立矢吹中学校

（学校名５０音順表記）

参加していただいた中学生の皆さん、そして御協力いただきました先生方に、厚くお礼申し上げます。このコンクールは、来年度も実施する予定です。たくさんの御応募をお待ちしています。



福 島 県 企 画 調 整 部
復 興 ・ 総 合 計 画 課
電話　(024)521-7123

ＨＰ：福島県　復興・総合計画課 で検索

※ふくしまの水に関する情報を掲載しています。